

園の教育活動や園運営について目標とすべき課題を設定し、その達成状況を話し合いながら自己評価をし、組織的かつ継続的な改善を図る。また子どもたちの日々の活動に対して幼稚園関係者による評価を受けるとともに評価結果を共有することにより、保護者や地域住民の方々の理解と協力を得て、園・家庭・地域の連携体制による幼稚園づくりを進めることを目的としています。

(Ⅰ) 建学の精神

「梅檀はふたばより香ばし」

子どもたちの育ちには幼児期の(ふたばの時期)の環境が最も大切

(Ⅱ) コンセプト

「ひとつ芽生えてまたひとつ」

身の回りの事象に興味・関心をもつことが、次へのステップアップに最も重要

(Ⅲ) 教育目標

- ◆みんな仲良く (時には喧嘩も必要、そして相手を認めることの大切さを知ろう)
- ◆強い心と体で (強い意志をもって行動することは強い体をつくること)
- ◆最後までやりぬこう (途中で投げ出さず最後までやりぬき、完成の喜び味わおう)

上記(Ⅰ)～(Ⅲ)を根底において、将来を担う子どもたちを教育することを目指しています。

(Ⅳ)令和3年度 園の重点目標

◆身体を動かす楽しさを味わう

(Ⅴ)令和3年度 各学年の重点目標

	重点目標	達成するために取り組むこと	結果
満3歳児	・身体全身を使って色々な動きを楽しむ。	・毎日のリズムの時間に曲に合わせて、いろいろな動きを取り入れ、身体を動かす心地よさを感じられるようにした。  ・体育あそびの中ではリズムの中で取り入れる動きより少し難易度を上げ、子どもたちが挑戦して臨めるよう取り組んだ。	・毎日リズムを行うことで、一年を通して動きが軽やかになり、身体を動かす楽しさを感じられていた。  ・経験を重ねるごとにできるようになったことも増え、子どもたち自身が更にやってみようという気持ち持って取り組むことができた。
年少組・3歳児	・力いっぱい身体を動かして遊び、遊ぶ楽しさを味わう。	・保育にリズムを取り入れ身体を動かせる経験を重ねる。  ・いろいろな遊びの中で、走ったり跳ぶ動きやルールのある遊びが経験できるよう誘いかける。  ・活動の中で出来た喜びや楽しい気持ちに共感する。	・身体を動かすのが苦手だった子どもたちもリズムを通して、身体を動かす楽しさを味わえるようになった。  ・友だちと一緒にいることで興味を持ち、自ら身体を動かして遊んだり、友だちを誘って遊ぶことが増えた。また走ったりボールを投げたりと大きな動きを通して、運動面においての経験もできた。  ・子どもの気持ちに共感することで、自信がついたり、次頑張ろうという前向きな姿勢で活動に取り組めるようになった
年中組	・体育遊びに取り組む中で、積極性や自発性を育てる。	・子どもたちが挑戦できたことや、上達したことを褒めることで自信に繋がるよう心掛ける。またできることを他児に見せることで、更なる自信へと繋がるよう工夫する。	・何事にも自信がなく不安げな表情を浮かべていた子どもたちも、できたこと頑張ったことを認めることで、徐々に自信となり、初めてのことにも自ら挑戦する姿や諦めずに何度も取り組む姿が見られるようになった。

・ 4 歳児		<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体を動かす活動に取り組む中で間違いをすぐに訂正せず、楽しんでいる姿を大切に、自ら気付けるような声掛けをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・間違いに自ら気づけるようになり、子どもたち自身がどうしたらよいか考えられるようになった。また他児に提案する姿が見られるようになり、意欲的に楽しく取り組むことができた。</li> </ul>
年長組 ・ 5 歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育遊びを通して友だちや保育者との関りも楽しみ、運動に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育の中で個人の運動能力が上がるようなあそびを取り入れる。</li> <li>・投げる・受けるなどの連続性を持った動きが経験できるよう、ドッチボールを定期的に行い、友だちや保育者と体を動かすことを楽しむ。</li> <li>・身体を動かす遊びの中で、遊びを提案したり何かあった時には自分たちで解決できるように促し、関わりの面においても成長できるように工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・走る・跳ぶ・投げるなどの経験ができたことで、運動面においての上達が見られた。</li> <li>・集団の遊びを経験することで、ルールの理解や一連の身体の動きが経験でき、集団で遊ぶ楽しさを味わえた。</li> <li>・子どもたちが遊びの内容について積極的に話し、またたくさん意見が出たときには自分たちで決めようとする姿が見られ、友だちとのコミュニケーション・関りも増えた。</li> </ul>

(VI) 取り組みへのステップ

①	今年度の重点目標・自己評価項目の設定	年度初め
②	重点目標・自己評価項目の達成に向けた取り組み	年度初め～3学期末
③	学校関係者評価委員との関わり	期中
④	自己評価の実施	12月末・3月末
⑤	学校関係者評価の実施	3月中旬
⑥	該当年度決算書と学校評価結果報告書の作成	4月下旬
⑦	事業の取り組みと会計処理について公認会計士の監査を受ける	5月下旬
⑧	学校評価報告書をホームページにアップする	6月上旬

(VII) 教員の自己評価項目及び結果

評価結果(平均値)とその項目数

	評価結果(平均値)					評価
	項目数	A	B	C	D	
1、園の基本姿勢についてのチェック	10	2	5	3	0	B
2、教師としての資質や能力・良識・適性、保護者への対応のチェック	35	4	20	10	1	B
3、保育の在り方・幼児への対応のチェック	30	5	15	8	3	B
4、地域の自然や社会との関わり、研修と研究のチェック	20	5	10	5	1	B
5、保育の計画性のチェック	5	0	2	1	1	B

上記は各項目に対する自己評価の結果を集計したものである。

(VIII) 2回の自己評価を終えて

職員それぞれが年間2回の自己評価を通して職員同士の連携や資質向上、安全管理の強化や施設設備の充実等に真剣に取り組む、園として、また学年の重点目標の指導についてはおおむね達成できた。自己評価の各項目の集計結果、十分でなかった点、特に評価の低かった項目については今後取り組むべき課題として継続的に取り組み、各課題をクリアできるように各自努力し、その努力が実って、質の良い保育を行えるように取り組んでいきたい。

財務状況: 令和3年、監査法人の監査により、予算・事業ともに適正に実施されていると認められている。

◇日常の保育等についての学校関係者・評価委員、評価と意見◇

評価者(1)

◇行事について

規模縮小や学年別開催となりましたが、中止となることなく、子どもたちの成長を感じることができ良かったです。他学年の演目は見ることができず残念に思いましたが、後日、動画配信があり、子どもと一緒に楽しく拝見しました。

◇日常の保育について

コロナ禍、子どもたちに対してきちんと感染対策がなされ、職員も気を付けている様子が感じられました。一年を通して制限の多い中、園児の為に時間をかけ、工夫を凝らして計画・実施いただき感謝しております。

評価者(2)

◇日常保育について

行事や日常生活の変更などの対応は、職員の業務も増え、とても大変なことだったと思います。その中で、一度も休園になることなく、保護者としてもとても助かり、安心して通園させることができました。

◇自由参観について

息子のクラスの保育室だけが窓が閉まったままで、保育室の声も聞こえず、窓に保護者の姿が反射して室内も見られず子どもの様子や保育の様子がほとんど分からなかったことが残念でした。

◇職員について

入園して間もない頃から、全園児の名前を把握し、名前を呼び掛けて迎え入れていただき嬉しく思いました。

評価者(3)

◇日常保育について

参観や個人懇談を通して、幼稚園での様子を知ることができ、職員が子どもたち一人ひとりとしっかり向き合っていることが伝わり、安心して子どもを預けることができます。今年度の取り組み状況に満足しています。

◇行事について

行事実施にあたり、子どもたちが喜ぶように一生懸命準備していただいておりますが、職員の負担が多くなるのではないかと心配です。コロナ禍のため、集まった作業は難しいとは思いますが、保護者からボランティアを募り、職員の負担が少しでも減るようお手伝いしたいと考えておりますので、是非お声がけください。